お互いに協力しあい
連携を大切にした保健室

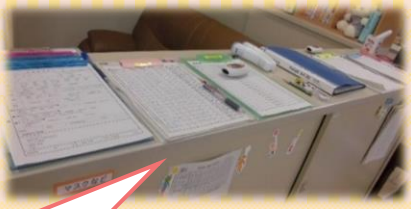
京都市立西京高等学校は，明治時代に商業高校として創立され，現在の形になってから約２０年が経過しました。校舎は地上７階，地下１階建ての近代的な構造で，西館には，附属中学校の生徒（約３６０人）が過ごしており，本館には，全日制と定時制の高等学校の生徒（約９００人）が過ごしています。今回は，全日制の保健室を訪問しました。

保健室のようす

中学生と全日制高校生が，共通の保健室を利用しています。

中学校籍の養護教諭１名と高校籍の養護教諭２名で協力して対応しておられます。中学校籍の養護教諭から内部進学の生徒の過去の様子を聞いたり，大きなけがの際は相談しながら見立てや処置を行ったり，様々な場面で協力・連携して日々の仕事を進めておられます。

生徒数が多く，複数人で対応するので，誰が見ても分かり，誰でも使えるように，ラベルを使用するなど，様々なところに整理整頓の工夫がされています。



来室した人は，入口のカウンターで該当校種の記録用紙に記入します。

カウンター下の扉の中に保健調査票があり，来室した生徒の情報を確認できます。

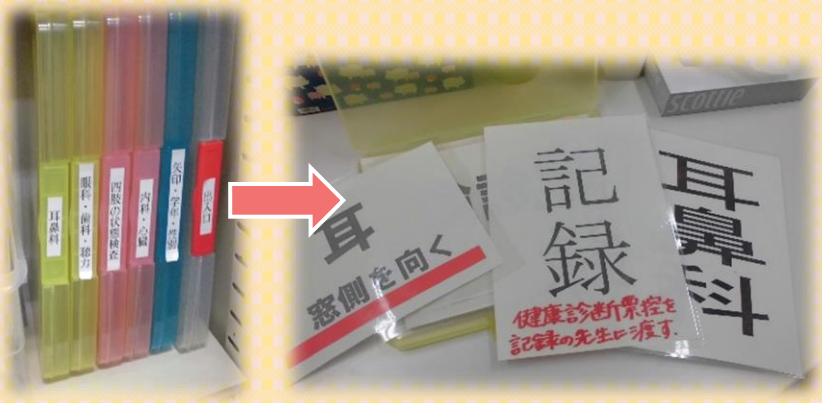
入口付近に救急処置コーナーがあり，嘔吐物処理セットや緊急時の持出しセットなども準備されています。処置台の上のホワイトボードは，中学校と高校の予定を同時に確認できます。

健康診断セット

健康診断は，年度当初の４日間に行います。それぞれの会場に分かれ一斉に実施するため，どの教職員が担当してもスムーズな検診が行えるように，会場設営図や注意事項，掲示物，必要物品などがわかりやすく整理されています。

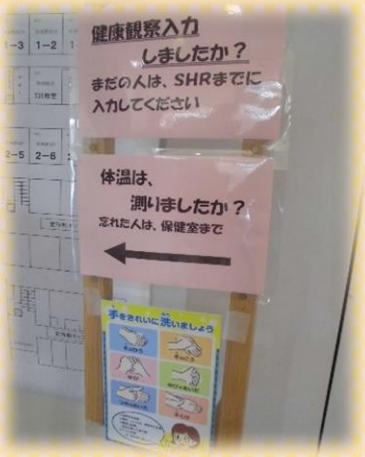
会場準備の様子は，写真で記録されています。

検診結果のはんこは項目ごとにまとめられています。



検診ごとに掲示物が整理されています。

感染予防対策



玄関では，生徒が忘れやすい健康観察の呼びかけを掲示し，注意を促しています。

検温や問診をする場合も，パーテーションで区切り，個別に対応されています。

模擬試験や補習，部活動などで，休日でも多くの生徒が活動します。養護教諭不在時も対応できるよう，保健室前の机にAEDや体温計，手指消毒用アルコール液が置かれています。